

29年4月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/4月	5月	6月
伐採動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	25.0	25.0
出荷・販売動向	スギ	△ 12.5	△ 37.5	△ 50.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	0.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	12.5	0.0	△ 12.5
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7

・スギの立木伐採は3カ月連続で横ばい。ヒノキは4月減少、5月横ばい、6月再び減少。カラマツは3カ月連続で減少。エゾ・トドは4月の減少から5月、6月は増加へ。

・スギ、ヒノキ及びカラマツの出荷・販売は3カ月連続で減少。エゾ・トドは4月の減少から5月は横ばい、6月は増加に。

・スギの手持立木在庫は4月は増加、5月は横ばい、6月は減少に。ヒノキは4月の減少から5月、6月は横ばいに。カラマツ及びエゾ・トドは3カ月連続で減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツ主伐の個所に入るのので、伐採動向は生産性も上がることからやや増加傾向（北海道）。
- ・受注先、買入れ先が国有林なので、4月中は伐採作業なし（北海道）。
- ・スギ、カラマツの伐採を積極的に実施（東北）。
- ・6月から国有林の請負事業を実施するため、伐採は減少する（関東）。
- ・ヒノキ伐採の新規請負事業を受注（中部）。

(スギの主伐を筆論（中国）)

(出材・販売動向)

- ・融雪時期で林道が通行できないために、出材・販売動向は減少（北海道）。
- ・スギ販売は控えめ、カラマツの販売は強気（東北）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木の在庫は、主伐箇所を伐採するので生産が上がるため減少（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも立木買入れは控えめ（東北）。
- ・材価が落ち始めているので、時期を待って伐採（東北）。
- ・主伐・間伐とも立木購入は進めていくので、手持ち在庫は横ばいで推移（関東）。